

「学校だより」

新沢っこ

2021年 12月号

檀原市立新沢小学校

電話 27-4163

(ホームページにはカラーで掲載しています。)



今年も残すところ後わずかとなりました。毎年この時期になると、その年の世相を表す言葉である「今年の漢字」や「今年の流行語大賞」のことが気になってしまいます。昨年度の「今年の漢字」は「密」でした。今年もやはりコロナ関連の言葉でしょうか。ワクチン接種や抗原・抗体から「抗(あらがう)」という漢字。収束を願って「収」。ウイズコロナ、共生社会という意味で「共」。それともオリンピック関連の言葉でしょうか。オリンピック・パラリンピック、大谷選手等の活躍から「活」または「躍」。来年こそ希望の年となるように「希」。いずれにせよ1年を振り返ることや来年に願いをかけたり、目標を持ったりすることはとても大切なことです。みなさんはどのような漢字一字を予想されるでしょうか。また、我が家の一年を漢字一字で表すとどのような漢字になるでしょうか。食卓の話題の1つにでもなれば一年を振り返るきっかけになるかもしれません。その時はなるべくポジティブな言葉を選ぶことが大切です。来年へのジャンプに繋がる元気が出る言葉がいいですね。



マラソン大会2021 ~たくさんのご声援ありがとうございました~

マラソン大会までの約1ヶ月間、飛沫感染防止の観点から奇数学年と偶数学年に分かれての2部制で、安全と健康に考慮しながら、毎朝のかけ足タイムを行い、体力作りに取り組んできました。がんばってきた成果を発揮する機会として昨年度実施できなかったマラソン大会を実施できたことを本当にうれしく思います。また、マラソン大会実施に際して、子どもたちの頑張っている様子を一目ご覧いただきたくご案内をさせていただいたところ、たくさんの地域の方々、保護者のみなさま、ボランティアの方々も駆けつけてくださり、大きな拍手とあたたかいご声援を贈っていただきました。「がんばれ～」は心のエネルギーです。子どもたちの背中をぐっと押していただいたように感じました。幼稚園の子どもたちもかわいい声援を贈ってくれていました。新沢小校区の地域力を感じさせていただいたマラソン大会となりました。ありがとうございました。

子どもたちは、一つ一つの学校行事を節目としながら大きく成長していきます。今回のマラソン大会において、「あきらめないこと・続けること・やりぬくこと」等学ぶことができたと同時に、地域の温かさや優しさを感じてくれたことと思います。登下校時に気持ちのいいあいさつをすることで感謝の気持ちをあらわして欲しいなあと思っています。



画質を落として掲載しています

修学旅行に行ってきました

11月18日(木)・19日(金)の1泊2日、好天に恵まれ、伊勢志摩方面への修学旅行に行ってきました。小学校の思い出として修学旅行は欠

かせないものです。まずは、修学旅行が実施できたことを喜び合いたいものです。伊勢市防災センターでの防災の学習、おかげ横丁でのお買い物、鳥羽水族館見学、志摩スペイン村パルケエスパーニャという行程でなかまとともに最高の思い出作りを楽しみました。

1昨年まで奈良県のほぼ全域の小学生は広島方面での平和学習が修学旅行の中心でした。過去の戦争の恐ろしさ・悲惨さを目の当たりにすると同時に、平和な世の中を誓い、自分の生き方を見つめ直す尊い時間でもありました。しかし、コロナ禍において修学旅行のあり方が一変し、当然ではありますが自分たちの安全と健康を第一に考慮し、バスでの移動を基本としながらの修学旅行となっています。今後コロナがどのように収束していくかはまだまだ見通しのつかない状況にあります。オンラインでどこにいてもつながることが可能になってきたICTの発達により今後の平和学習のあり方も考えながら、修学旅行の行き先についても考えていきたいと思えます。

子どもたちにとっては「どこへ行くか」より「なかまと行く」ことが最優先であり、6年生38名全員で修学旅行に参加できたことは何よりの思い出です。自分たちで、感染症対策に努めながら、意識高く行動をしました。また、男女仲良く、自主・協力・安全を常に心がけ、集団行動における自由と規律を理解し、本校の最高学年として恥ずかしくない行動をとってくれていたように思います。

保護者の皆様方におかれましては、コロナ禍の中、さまざまな不安や心配もあったこととは思いますが、修学旅行実施にあたり、ご理解・ご協力いただき、子どもたちにとってすばらしい思い出ができましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。



「念」と「忘」から「解」を！

「念」という文字は、心を今に寄せるということから成り立っています。物事に集中してしっかり考えることはとても大切なことです。しかし、一生懸命物事を考えてもなかなか答が見つ

からないときもあります。むしろ考えれば考えるほどわからなくなってしまうということもよくある話です。そんなときは、一度考えることをやめてみるのもいいかもしれません。「忘」という文字は、心を亡くすと書きますが、この場合は、一旦心を空っぽにすると解釈してみましょう。そうすることで、意外にも創造的な「解」が突然天から舞い降りてきたという経験は誰しもあることでしょう。トイレに入っているとき、またお風呂でゆっくり湯船につかっているとき、これまであれほど悩んでいたのに、ふと「あっ、そうか」と解決の糸口が見つかったという経験を思い起こされた方もおられるかもしれません。井上陽水の「夢の中へ」という歌の歌詞に「探すのをやめたとき見つかることもよくある話さ 踊りましょう」というイメージと似た感じです。集中して考えることと、全く考えないことは決して相反することではなく、セットで考えることが大切であると思えます。勉強する時も、ゲームをする時も、スポーツをする時も、仕事をする時も、常に「念」と「忘」をセットで考えることで「解」が生まれるものだという意識しておきたいものですね。 (「忘」「年」「会」ではありませんので、悪しからず)



新沢小学校ホームページ

校長室の窓を適時更新中です。よろしければご覧下さい。